



市町村のまちづくり

境町のまちづくり

－「水害に強いまちづくり」と「道の駅などを活用したまちづくり」－

境町総務部防災安全課
境町秘書公室まちづくり推進課

危機管理監 高桑 大助
課長補佐 中村 博明

1 『水害に強いまちづくり』

■境町の概要

境町は、茨城県の西端で利根川に隣接し、江戸川との分岐点に位置するため、江戸時代から奥州の窓口と言われ、古くから水運の拠点として栄えた町です。



現在は、圏央道の開通により主要な飛行場へは約1時間と首都圏へのアクセスが良好で、面積約46km²、人口約24,300人の風光明媚な町です。



水運拠点の歴史

■境町の防災上の課題

境町の地形は、起伏が少なく、利根川が氾濫した場合は町の約90%が浸水域にあり、町外への広域避難を余儀なくされます。(役場で約7mが浸水)



境町ハザードマップ

更には、町の役場周辺を中心地は、すり鉢状の地形を呈し、平成27年の関東・東北豪雨災害においては、内水氾濫等により中心地が孤立し、約500戸の住家が浸水、農畜産物等被害総額約20億円の甚大な被害が発生しました。

このため、利根川の氾濫を災害の最大リスクとし、全



浸水した町中の状況



ボートによる救出状況

住民へ『いかに確実に危機感を伝え、一人の犠牲者もなく避難させるか』が喫緊の課題となっています。

■具体的な取り組み

◆広域避難場所の確保

約25%の住民が、自ら町外に避難先を確保できないとのアンケート結果を受け、町外の近隣2市2箇所に広域避難所(約7,000人分)を確保しました。



県立坂東総合高校と覚書を締結



県立総和工業高校と覚書を締結

◆防災アプリ「Sakaiinfo さかいんふお」の導入

平成34年11月以降、防災行政無線のデジタル化への移行に伴い、インターネットを基盤とした防災アプリを導入しました。これは双方型で、被災者が「要救助」で返信すると災害対策本部のデジタルマップ上で被災者の位置を表示できます。



防災アプリのイメージ

◆水害避難タワーの建設

逃げ遅れた住民の緊急避難場所として役場西側に、日本で初となる水害避難タワーを建設(都市防災推進事業を活用)しました。

タワーには、緊急時に約200人、3階部で接続した役場庁舎と併せれば、約1,000人の被災者が、逃げ遅れた場合



水害避難タワー

など一時的に避難することができます。

また、防災倉庫をタワー内に設置するとともに、屋上をレスキューポイントとして設定し、予備発電機をタワーに併設することにより、緊急時の電源を確保しています。

2 『道の駅などを活用したまちづくり』

■はじめに

境町では、南の玄関口に位置する「道の駅さかい」をまちなか活性化の拠点として、まちづくりを進めています。

◆道の駅レストラン建設

道の駅の北側敷地内にレストランを新設しております。

設計は、2020年東京五輪パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場を設計した世界的に有名な建築家隈研吾氏。

県内では、取手市の県南総合防災センターを手掛けています。また、道の駅に携わるのは、高知県梶原町、秋田県鹿角市に続き3カ所目。レストランは鉄骨2階建てで、1階は地産地消を提供するbuffetレストラン、2階は「さし茶」やケーキを楽しめるカフェ、特産品の梅山豚・常陸牛の鉄板焼きも提供する予定です。

外観は、町の特産品の「さし茶」と建築物の融合が見事で、外壁を覆うように設置されたポットには、さし茶の木が植えられ、太陽光を遮断すると共に、境町らしさを表現しています。

レストランの店内は、さし茶染めの布地を天井と壁に張り巡らせ自然環境への配慮も考えられたモダンなデザイン。利用者が快適に過ごせるような空間作りが至るところに施され、「食」が人と町を結ぶ賑わいの茶蔵として、地産地消で境町を体感する食文化の楽しさや新たな



現在の道の駅さかい



隈研吾氏設計のレストラン 完成予想図

な食文化の発信の場として、集客を図っていきます。

なお、オープンは平成31年4月を予定しています。

◆六次産業施設「さかいサンド」

境町の地元農産物を加工し商品を製造するサンドイッチ専門店が、平成30年10月29日にオープンしました。

境の野菜を使用したサンドイッチや境町産小麦を使用した食パンを販売しており、境町の野菜やお肉などを使用した惣菜の製造も行っています。



「さかいサンド」の外観



店内の様子

◆河岸の駅さかい

(株)さかいまちづくり公社が、空き店舗対策の一環として手掛けてきた、交流と賑わいの拠点となる「河岸の駅さかい」が、平成30年11月14日にオープンしました。1階はベーカリーとテストキッチン、2階がシェアオフィスとなっています。



「河岸の駅さかい」の外観



店内の様子

■今後の展開

再びまちなかの賑わいを取り戻すため「道の駅さかい」「河岸の駅さかい」を観光及び商店街活性化の拠点とし、新たに整備を予定している「まちかどギャラリー」や「ワインなどの研究開発施設」と併せて、まちなかへ人を呼び込む動線として新たな人の流れを作り出し、外部からの集客を図っていきます。



さかい河岸ブルワリー

